

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス チルドレア 北美原教室		
○保護者評価実施期間	R7年2月10日		～ R7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	R7年2月10日		～ R7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月5日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもの発達状況に応じたきめ細かい個別支援及び集団での支援	・障害(知的・情緒など)別、発達状況に応じた個別支援(学習・トレーニング)ができています。 ・集団活動では、異年齢の子どもとの運動遊びやゲーム、創作活動などを通してルールやコミュニケーションスキルの習得に積極的に取り組んでいる。	・子ども同士の関りのなかで、子ども自身の自主性・主体性が導き出せるよう側面からの支援をおこなっていく。
2	・保護者支援及び関係機関連携	・保護者からの相談(家庭や学校等での困り感)に応じ、問題解決や改善策に積極的に取り組んでいる。例えば、学校での学習のつまずきについては、子どもの困り感が軽減されるよう学校と連携を図り対応できている。また、家庭において基本的な生活習慣が不安定となった場合など、保護者や関係機関等と緊密に連携を図り、その改善策に取り組むことができている。	・引き続き、保護者のニーズに応じていけるよう、関係機関との連携を緊密に図っていく。また、保護者の不安や悩みに迅速に対応し、安心していただけるよう努める。
3	・手厚い支援体制・児童指導員、社会福祉士、保育士、理学療法士といった職員が療育・支援に関わっている。	・専門職員については非常勤職員も積極的に配置している。 ・専門的支援体制を実施し、担当者を中心に、子ども一人ひとりの個別支援や集団支援に取り組んでいる。また、職員全員で振り返りを行い、改善につなげている。 ・連絡帳や送迎時にフィードバックの時間を設けている。	・客観的な評価、アセスメントを行い、強みを活かした支援 ・弱みに対する環境調整や配慮を行っていく・専門職については配置のみではなく、より専門性を活かしたプログラムが実施していけるように、研修等を交えて専門性を高めていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者の方への非常時等への対応(緊急時・感染症等)に対する周知・発信不足。 訓練等実施していることでの発信不足。	・防災への取り組みや緊急時の対応は作成しているが、契約時のみの説明に留まり、周知機会が不足していた。	・防災への取り組みや緊急時の対応に関しては、内容の確認の元、年度初めに保護者へ周知していく。必要時、冊子を作成。 ・Instagramやおたより等を通じて、保護者の方へ取り組みを発信していく。
2	・利用児と地域との交流機会や保護者同士の交流機会の企画・提供不足。	・療育内容や支援といった「本人支援」に重点を置いており、「地域支援・地域連携」に対する情報収集不足・取り組み不足が考えられる。 ・年間計画として立案できていなかった。	・安全面を考慮しながら、近くの公園等から少しずつ交流の機会を増やしていく。また、地域の活動等の情報収集を行う。長期休暇時の利用の場において設けていく。 ・研修会や保護者交流の企画立案において、内容に関しては保護者のニーズ・意見を聴取し、年間計画として立案する。
3			